新型コロナワクチン３回目を接種して

篠崎 辰夫

２月１７日、３回目の接種をしてきました。なかなか接種券が届かず、２回目から８か月半が過ぎていた。ワクチンはモデルナ製の交互接種。副反応は前回より若干腕が痛く感じた程度で、その痛みも１日で解消。報道されているような発熱、倦怠感などの症状は全く感じられなかった。これでひと安心といきたいところだが、油断大敵、基本的な感染対策は続けたいと思う。

予約のシステムや接種当日の運営も前回より改善が見られ、大変スムースに進んでいた。自治体や現場関係者の努力に敬意を表したい。ただ、この３回目の接種が全国的になかなか進んでいないようだ。感染の第６波はピークアウトしたものの依然高止まり状態が続いている。

３回目接種が進まない理由を政府は、米モデルナ製ワクチンの副反応への国民の忌避感としているが、早く接種したいが接種券がなかなか手元に届かない、というのが実態ではないだろうか。接種券がなくても、いつでもどこででも接種できるように、体制、仕組みを変えていくべきだろう。

ようやく岸田総理は、2 月中のできるだけ早期に 1 日 100 万回をめざすと表明したが、思う通りに進んでいないのが実情のようだ。一方で、さらに手強い新たな変異株の市中感染が確認されており、第６波のピークアウトも束の間、リバウンドにつながる可能性があるとして注意喚起されている。まずは３回目の接種を強力に推し進めることが先決、もう４回目接種は御免だ。

今さら言っても仕方ないが、初動の１回目ワクチン接種がもう２～３カ月早かったら、東京五輪もあんなに苦労しなくても開催できただろう、また続く３回目接種も昨年末には接種がかなり進んでいて、オミクロン株もこんなに感染爆発せずに済んでいただろう。初動の遅れが今に至る感染拡大の根源と言える。これを反面教師にして、次の波はなんとしても防いで欲しい。

（2022/02/25）